

# 良田地区

縄文時代～中世の  
遺構、遺物を発見！！

## 良田平田遺跡

よしだ ひらた いせき

因幡地方で初めて出土した  
和同開珎



今回は奈良時代の溝から出土した古代の銅銭「和同開珎」についてご紹介し

ます。和同開珎は、日本最初の鑄造貨幣である「富本銭」(7世紀後半)に次ぐ貨幣です。藤原京から平城京に都を遷した女帝・元明天皇(在位707～715年)が、武蔵国(現在の埼玉県秩父市)で和銅と呼ばれる純銅を産出したことを記念して、和銅元(708)年に鑄造を命じました。最初は銀銭と銅銭がありましたが、銀銭は1年足らずで廃止されたようです。

鳥取県ではこれまでに伯耆国庁跡(倉吉市)、諏訪西山ノ後遺跡(米子市)で計4点出土していますが、因幡地方では初めての出土例で貴重な発見となりました。



和同開珎の出土状況



和同開珎(直径2.4 cm、実物大)

## 良田中道遺跡

よしだ なかみち いせき

縄文時代の景観が現れました！



2区 縄文時代終わり頃の景観



1区の調査風景

湖山池南岸には、縄文時代の丸木舟が見つかった桂見遺跡をはじめとして、縄文時代の遺跡が集中しています。湖山池南岸にある良田中道遺跡でも、今回の調査で弥生時代の地層の下から縄文時代の地層が見つかりました。

縄文時代、このあたりには湖山池に注ぐ大きな流路がありました。今年度の調査では、周囲に竪穴住居などの遺構は残念ながら見当りませんでしたが、たくさんの土器がまとまって出土する場所があることから、遺跡周辺で縄文人が生活していたことは確かなようです。

12月で2区の発掘調査は終了しました。今後は室内で出土した土器などの整理をしていく予定です。

1区も今年の発掘調査は終了しました。中世以降の田んぼの跡が見つかりました。

# 鳥取西道路の遺跡を掘る！

第44号 2012年12月21日

発掘調査が進む湖山池南岸には、多くの遺跡があります。そこで今回は湖山池東南部の布勢にある石造物について、をご紹介します。



## 湖畔にひっそりと残る石造物

今回ご紹介するのは、湖山池の東南部にある「布勢の山王さん」として親しまれている日吉神社にある山王社地宝篋印塔です。

これは「宝篋印陀羅尼」という呪文を納める塔といわれています。この陀羅尼には地獄へ落ちる人も極楽へ生まれ変わることができる徳があります。また、宝篋印陀羅尼だけではなく法華経を納めることもあります。

「篋」という字は箱を意味します。仏教でいう宝は釈迦の骨「仏舎利」や経典をさすので、宝物を入れた箱の塔という意味かもしれません。

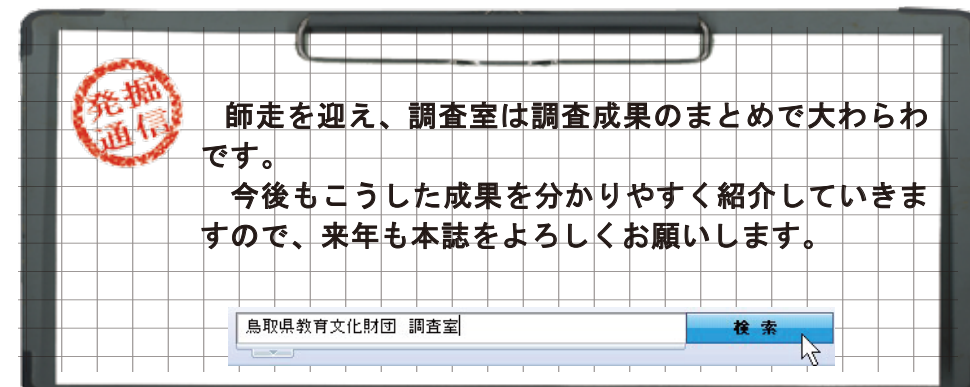
この塔の特徴は、隅飾りという四隅に飛び出した飾りにあります。中国やインドでは平屋根の飾りにつけられています。

この石造物は南北朝時代に造られたもので、現在は鳥取市の保護文化財に指定されています。



布勢の山王社地宝篋印塔

(財) 鳥取県教育文化財団  
調査室  
美和調査事務所  
〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地  
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)  
TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス :  
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com





# 桂見地区

東桂見遺跡・桂見鍋山遺跡の  
発掘調査が終了しました！！

## 東桂見遺跡

ひがしかつらみいせき



竪穴住居跡が3棟  
みつかりました！



東桂見遺跡の山際の調査区では、竪穴住居跡が3棟みつかりました。建物の時期は、谷間で耕作されていた水田と同じ古墳時代前期（1700年前）の建物です。古墳時代の人々は、山際に居住し谷間でお米を作っていたのでしょう。

竪穴住居の床面からは、土器がつぶれた状態で出土しました。住居は、床面に土器を放置したまま放棄されたものと考えられます。この土器のかたちの特徴などからこの住居が放棄された時期を詳しく知ることができました。



## 桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき



今から約3000年前の縄文土器が  
出土しました！



桂見鍋山遺跡出土の縄文土器

調査の終盤は、みぞれや雪が降る中での作業となりました。調査では、現在の地表から約3m下の縄文時代の地層から、およそ3000年前の縄文時代後期の土器が出土しました。

縄文時代の桂見鍋山遺跡には、谷間に幾筋もの流路が流れており、居住には適していませんでしたが、縄文土器が出土することから、時には近隣に人が訪れ、活動をしていたようです。

# 高住地区

発掘調査が終わりしました！！

## 高住井手添遺跡

たかずみいでぞえいせき

最後の最後に  
縄文土器が出土！



弥生時代の遺構の調査を終えてその下を掘り下げたところ、標高0メートル付近で土器が出土しました。縄文時代中期（約5000年前）のもので、表面には縄目の模様が付けられています。

土器は当時の川の中から出土しています。この川には何度か水がなくなって草が生えた痕跡があるので、土器は干上がった川底に足を踏み入れた縄文人が残したものと考えています。



縄文土器の出土した深さから、さらに川砂を掘り下げ、標高はマイナス50センチメートルに達しました。さすがに縄文土器も出てこなくなりました。これにて発掘調査は終了です。

調査地の中はとても殺風景になりました。たくさんの方の弥生時代の木製構造物と格闘していたことが、なつかしく思い出されます…。

## 高住牛輪谷遺跡

たかずみうしわだにいせき

古墳時代の  
下駄が出土！

高住牛輪谷遺跡では、1区で古墳時代の遺物が出土した地層の調査を行いました。土器などとともに下駄が出土しました。一木作りの連齒下駄です。鼻緒を取り付ける前緒穴は中央より右側に空けられています。

前緒穴



手前の矢板に囲まれた調査区から、  
高住牛輪谷遺跡1区、2区、3区、  
高住井手添遺跡（東から撮影）

7ヶ月にわたった高住牛輪谷遺跡、高住井手添遺跡の今年度の調査。

最後に高所作業車から遺跡の写真を撮り（上の写真）、調査を終えました。

地元の皆様には調査期間中お世話になりました。ご協力ありがとうございました。